

令和2年度 呉市総合計画審議会第3回会議 摘録

1 日 時 令和2年9月9日(水) 18時30分～20時35分

2 場 所 呉市庁舎7階 752～754会議室

3 概要・骨子

【審議】

【資料説明】

- ・資料1 第5次呉市長期総合計画(第2編基本構想まで)素案に関する説明。
- ・資料2 政策体系図(イメージ)に関する説明。

【意見交換】

資料1 第5次呉市長期総合計画(第2編基本構想まで)素案について

委員からの主な意見・提案は次のとおり

【赤川会長】

- ・修正等のご意見がある場合は、具体的な修正箇所と表現について、発言をお願いします。

(1) 序論について(P.1～24)

【岩崎委員】

- ・沿革(P.4)のところに、合併8町が抱える少子高齢化、過疎といった問題も、市の課題として浮き彫りになったという視点での言及がいないのではないか。また、人口動向でも合併8町の状況に触れるべきである。
- ・経済の動向(P.11)の(1)全国的な動向について、「東京オリンピックの開催などを含め、インバウンド等の観光産業が今後の日本の主要産業として役割を果たすことが期待されている」とあるが、インバウンドに頼らない観光施策のあり方が、国や民間において検討されているので、インバウンドで何とかするという文言を修正すべきである。また、(2)呉市の動向のところで、「大和ミュージアムなど観光客が増えて、一人当たり観光消費額が約6千円」となっているが、現状、入り込み観光客数が相当落ち込んでいることや、日本製鉄株式会社瀬戸内製鉄所呉地区の休止問題に少し触れておく必要がある。

【小倉委員】

- ・人口動向の(2)呉市の動向(P.6)について、呉市の人口推移のグラフ(図表1-4)も、全国のグラフ(図表1-3)と同様に、実績値と推計値がどこから分かっているのかという表記を追加したほうが良い。

(2) 将来都市像について (P. 25～26)

【海堀委員】

- ・ 4 災害に屈しない強靱なまち「くれ」について、豪雨、台風、地震、これは災害じゃなくて自然現象である。災害に繋がる自然現象になるかもしれないけれども、災害にならない、普通の自然現象のまま終わるかもしれないので、冒頭部分は「豪雨や台風、地震などによる災害に備えて、」という表現が正しい。

【岩崎委員】

- ・ 1 質の高い生活が実現されるスマートシティ「くれ」について、呉駅周辺がコンパクトシティ+ネットワークの核であるというのは良いが、呉駅を中心に都市機能・行政機能が集約され、自分たちの地域の行政機能は、切り捨てられるのではないかというイメージを持つ人もいると思うので、呉駅から離れた地域はどのようなイメージのまちになるのか、この文章で触れる必要はなくても、今後、重要な論点として考えて欲しい。
- ・ 呉市の都市像について、防災対策や新型コロナウイルスへの対策がしっかりしていて安全なまち。観光などで都会から来ても、移住されても、安心できるまち。その裏打ちとして、呉市には豊富な医療資源があるので、災害あるいはポストコロナ、ウィズコロナを見据えて、安全・安心というようなキーワードが含まれていた方が良い。

【郡山委員】

- ・ 呉市の都市像は、未来に向けてのポジティブなメッセージになっているので、具体的に新型コロナウイルス問題の後が見えてきていない中では、安全・安心はもうちょっと別の形できちんと打ち出した方が良いのではないか。例えば、報道発表の時などで、新型コロナウイルス問題を見据えた安全・安心については、基本的なこととして当たり前きちんと取り組んでいくという形で扱った方が、メッセージとしてもきちんと打ち出せるのではないか。

【岩崎委員】

- ・ このキャッチフレーズは、例えば新型コロナウイルスが流行する前に発表されたとしても全く違和感がなく、逆に今見ると違和感がある。呉市の都市像は、すべてが集約されているから都市像なので、ここに安心というような文言・要素があった方が良い。

【郡山委員】

- ・ 10か年という計画の中に、見通しが立っていない新型コロナウイルスの問題を入れてしまうのは、少し危険だと思う。

【岩崎委員】

- ・ 新しい日常については、向こう数年間にわたる政府方針が示されており、取り組むべき課題は共通している。呉市が単独でやれることはなかなか思いつかないかもしれないが、国民が心がけることとしては共通している。向こう2、3

年は、コロナの影響が何らかの形で続くのはほぼ間違いなく、この計画にそれなりの文言があってもおかしくない。

【小林委員】

- ・新型コロナウイルス感染症の流行拡大は世界的な問題ではあるが、平成21年に豚インフルエンザなど新型インフルエンザウイルスが蔓延して、この時点において厚生労働省はガイドラインを出している。それを今、我々は全く初めてこういった問題が起きたように大騒ぎしている。

呉市の都市像のキャッチフレーズへ載せるのではなく、市はこのような感染症の流行について情報提供するとか、各企業にこのような感染症の流行に対して準備をしておくとか、そうしたことを、各分野の施策の中に組み込んだ方が、実行力があると思う。

【岩崎委員】

- ・新型コロナウイルスの問題、災害・防災、これらを含めて、安心もしくは安全というキーワードを、呉市の都市像のキャッチフレーズに入れるべきだと思う。

【小林委員】

- ・具体的な施策の中に組み込めば良いのではないか。結果として、行ってみたいとか住んでみたいにつながってくるのではないかと思う。

【岩崎委員】

- ・それでは少し危機感が足りないような気がする。少なくともあれだけの災害が発生した都市であるということを考えると、安心して暮らせる、安全に暮らせるというのは、この「イキイキ」「豊かに」「ワクワク」と同列であっても良いと思う。

【神田委員】

- ・4 災害に屈しない強靱なまち「くれ」の、災害に特化している部分の幅をもう少し広げて、「危機に屈しない」という文脈にした方が良いのではないかと思う。日本製鉄株式会社瀬戸内製鉄所呉地区の休止の話も、ある意味危機であり、何に対してもとにかく負けないというメッセージを発していく方が、よりバランスよく、クリアになる気がする。
- ・呉市の都市像の中に、市民に向けて「住み続けたい」というメッセージも発した方が良い。呉市の人口減少について調べると、30歳代、40歳代が、東広島市や広島市南区など呉市から比較的近い地域に移り住んでいるという実態がある。キャッチフレーズは、できるだけ簡潔にという考え方もあるが、この視点も合わせて検討して欲しい。

【海堀委員】

- ・呉市の都市像の「人を惹きつけるまち」の前に、「安全で安心な」という文節を加えるのが良いと思う。新型コロナウイルスの問題も、土砂災害や洪水災害とは違う形の災害だと考えている。新型コロナウイルスに対して、どのように

対処すれば良いのかも含めて、現時点では具体的なことがほとんど書けないと危惧しているが、それほど具体的ではない記述であれば、含めることができるかもしれない。

【神田委員】

- ・例えば、安全・安心を、強靱というニュアンスで捉えて、「しなやか」という言葉を加える方法もあると思う。キャッチフレーズが少し長くなってきているので、「安全で安心な」を加えるとリズムが悪い気がする。

【向井副会長】

- ・キャッチフレーズは、余りにも長いと伝えたいことが伝わらないと思うので、下段のフレーズへ、安全・安心、しなやか、という意味が伝わるフレーズを、加える方が良いと思う。

【郡山委員】

- ・「住み続けたいまち」であれば、住みたいまちでもあるので、「誰もが住み続けたい」に変更してはどうか。住み続けたいのであれば、外の人も住みたいという気持ちにはなるはずである。下段は、「イキイキと働ける、豊かに安心して暮らし、ワクワク生きる」としてはどうか。

【岩崎委員】

- ・下段へ安心して暮らせるというフレーズを加えても、防災対策を一生懸命やるというメッセージが、どの程度加わるだろうか。字数の関係で難しいが、安心には福祉の充実や雇用の確保のイメージもあるので、セーフティ、セキュリティの意味での安全の方が良いのではないか。「安心」だけにすると、これまでの議論が弱くなっていくような印象を受ける。

【田中委員】

- ・安全のその先に安心があるということを考えると、最終的には安心が目的となる。キャッチフレーズの長さのことも考えると、最終目的をキャッチフレーズとして挙げておくのが良いのではないか。

【岩崎委員】

- ・日本語としてはそれが正しいと思うが、受け止める実感として、メッセージが弱くなるような気がする。私の中でも結論は出ていないが、事務局も含めた議論にお任せする。

(3) 目指すべき姿について (P. 27~39)

【岩崎委員】

- ・福祉保健分野 (P. 28) の中で、新型コロナウイルスの問題について、全く言及がなくても良いのか。新型コロナウイルスを含めた感染症対策を、しっかりやりますという文言が入った方が、納まりが良いと思う。また、呉市には全国のモデルになっている「減塩」の取組もあり、減塩というキーワードを加えても良いと思う。

- ・産業分野 (P. 31) で、「世界の記憶」に認定されたとあるが、世界の記憶に登録されているのは、岡山県の方の風景を描いた絵図である。その絵図が旧町時代から下蒲刈にあるだけで、下蒲刈という場所が世界の記憶に認定されているわけではない。したがって「世界の記憶」という単語を省くか、内容を正確に書くか、修正の余地がある。
- ・都市基盤分野 (P. 32) のコンパクト+ネットワークに、市街地中心部及び各種拠点への都市機能集約という言葉がある。これは時代の流れであり、必要な措置だと思うが、旧合併町の方からすると、だんだん目の前の行政機能が縮小されていくことを示していると感じ取る人もいないので、十分な説明が必要である。

【小林委員】

- ・用語解説 (P. 36～39) を読みながら、この文章を理解していく方がどのぐらいいるのか。この文章を読んで、市民にワクワクしてもらわないと、作っただけで終わってしまう。難しいことをわかりやすく市民に伝えることが必要であり、こうしたまちになるなら住み続けようと思ってもらわないと意味がなく、住み続けてくれない。地元企業としても、求人が困るなど、いろいろな影響が後で自分達に返ってくる。難しいことをもっと分かりやすく、ワクワクするように伝えるために、カタカナとローマ字は減らして欲しい。

【神田委員】

- ・今後、新型コロナウイルスの問題で、きつくなるのは経済対策であり、2年前の豪雨災害もそうだが、直接的な被害と、その後の経済被害にどのように対応するのかということ、うまく書くことはできないか。例えば、産業分野 (P. 31) に、東京一極集中の是正とかワーケーションなどのキーワードがあるが、地元企業のコロナリスクを低下させつつ、ビジネスを継続させるためのサテライトオフィス、テレワークというのもあり得るし、冷え込んだ人々の移動や消費、地域経済に対しての何かメッセージが、ここに書けないかと思う。
- ・東京一極集中の是正ではなくて、東京一極集中をはじめとした、大都市集中の是正ではないか。広島市や東広島市からの移住というのも含めて、別に東京だけではなく、大都市からのというニュアンスが入っても良いと思う。
- ・都市基盤分野 (P. 32) について、「これらにより、災害時でも、人命が最大限保護され、社会の重要な機能が致命的な障害を受けずに維持される強靱な」とあるが、今回の新型コロナウイルスの問題では、人命と経済のバランスをどのようにとるかということが問われており、例えば「災害時でも、人命が最大限保護され」と「社会の重要な機能が」を「，」ではなく、「かつ」や「そのために」でつなぎ、インフラを機能させるというメッセージを伝えられれば良いのではないかと思う。

【田中委員】

- ・環境分野 (P. 33) について、世の中の流れとしては、地球温暖化の防止も一生

懸命頑張らないといけないが、地球温暖化に対して適応もしていかないといけないので、「適応」という文字を入れた方が良いと思う。

【小倉委員】

- ・地球温暖化への適応策は、環境保全というよりも都市基盤の話だと思うので、適応策という言葉を入れるのであれば、都市基盤分野に入れたほうが良いのではないか。環境分野（P. 33）で、地球温暖化の防止の後に適応策を入れるよりも、実際の適応策が書いてある都市基盤分野（P. 32）で、ハード整備などの地球温暖化適応策に取り組みます、というような表現がシンプルでわかりやすいと思う。

【田中委員】

- ・地球温暖化への適応は、インフラ対策だけではないと考えており、防災に紛れてしまうより、環境分野（P. 33）において「地球温暖化への適応」を柱として立てて、「地球温暖化の防止」と一緒に入っている方が良いと思う。

【海堀委員】

- ・都市基盤分野（P. 32）の幹線道路や生活道路のところに、いざという時に避難路として使えるものとか、そういうことが書かれていると良い。

【赤川会長】

- ・答申案の作成について、私に一任いただけますか。

【各委員】

- ・反対意見なし

【赤川会長】

- ・ありがとうございます。本日の皆さんの意見を踏まえて答申案を作成します。作成した答申案は、後日、委員の皆様へ送付し確認していただくようにします。

資料2 政策体系図について

委員からの主な意見・提案は次のとおり

【岩崎委員】

- ・福祉保健分野（P. 2）の「健康づくりの推進」のところで、新型コロナウイルス感染症予防対策について、主な施策の項目を立てるべきだと思う。
- ・日本製鉄株式会社瀬戸内製鉄所呉地区の休止問題がどこに書いているかがわかりにくい。個別の企業名を出すかはともかく、日本製鉄株式会社瀬戸内製鉄所呉地区の休止問題を示している、ということをもう少しクリアに明示するような施策の項目立てがあっても良いのではないかな。

【渡辺委員】

- ・福祉保健分野（P. 2）に関して，高齢者福祉の推進や障害者福祉の推進はあるが，児童福祉の推進がない。それは子育て・教育分野（P. 1）に含まれていると捉えられているのか。子どもに関する福祉の問題は深刻だと思うので，ぜひ入れて欲しい。
- ・生活困窮者の支援（P. 3）について，主な取組を見ると，就労支援，訓練支援が中心になっているが，実際にはいろいろな問題が合わさり重複して起こっていると考えており，領域が縦割りで分かれてしまうのが，福祉の対策で一番まずいと考えている。本年6月に社会福祉法が改正され，重層的支援体制，包括的な支援体制ということが強調されているので，重層的・包括的というところを何か加えて欲しい。
- ・都市基盤分野（P. 9）で，コンパクトシティという言葉が出てくるが，呉市の中心部におけるコンパクトシティの意味合いと，島しょ部の中でのコンパクトシティが同じ意味合いだとは思えない。島しょ部の中でのコンパクトシティをもう少しかみ砕いて，どんな形で具体的な生活として表れてくるかということを書いて述べる必要がある。また，それに対する支援について，市として放っておいて良いのか，何か対策をとっていかなければならないのか，ということを目にもう一回考えたほうが良いのではないかと。

【神田委員】

- ・産業分野（P. 8）について，向こう5年間，新型コロナウイルスの問題からの地域経済復活ということが，間違いなくキーワードになってくると思うので，この問題に対する地域経済対策があっても良いのではないかと。

【田中委員】

- ・環境の保全（P. 11）のところ，地球環境の保全とあるが，並列させるような形で，「地球温暖化への適応」が入ると，並びとしては良いのではないかとと思う。適応というのは広いので，ここで一つ立てておいた方が良いのではないかと。

【折橋委員】

- ・健康づくりの推進（P. 2）の「③地域医療体制の確保」の主な取組として，「医療機器等の整備（公立下蒲刈病院）や医療従事者の確保など救急医療体制の確保」と書かれているが，括弧の中の下蒲刈病院が医療機器等の整備が不足していることが，当然の前提として書かれているのであれば，「公立下蒲刈病院の医療機器等の整備」と区切るなどとしたほうが良いのではないかと。また，そのあとも，「医療従事者の確保などを通じた救急医療体制の確保」と前段の医療機器等の整備と分けたほうが良いのではないかと感じる。
- ・消防・救急機能の強化（P. 5）とも関わるが，救急医療は厚生労働省，救急搬送体制は消防庁・自治体消防が所管しており，この「消防・救急機能の強化」のところ，救急搬送と明示できないか。行政全体の体系として，整備しきれていないところではあるが，課題を明確にするという点で，消防・救急の後に，

搬送という言葉が入っても良いのではないかと思います。

【濱里委員】

- ・基本計画の作り方として、完全に厚生労働省の領分と消防庁の領分を分けて記述する方法もあるし、再掲という形で載せる方法もある。具体的な取組を基本計画に割り付けて、計画全体の分野ごとの施策の分量のバランスなども調整する必要があると思う。

【海堀委員】

- ・都市基盤分野（P.9）の「3 道路の整備」のところに、「④ 避難路の整備」と加えると、少し難しいとは思いますが足りていない部分に、力を注ぐことにつながると思う。

【岩崎委員】

- ・市民生活・防災分野のところに「③ 呉氏を活用した魅力発信」（P.5）というのがあるが、防災力の向上や救急・救助体制の整備と同じレベルで書かなくても良いのではないかと。主な取組にしっかりと書けば良いのではないかと気がする。

【赤川会長】

- ・たくさんのご意見をいただき、本当にありがとうございました。
それでは、本日の議論を終わりにしたいと思います。皆さんからいただいた政策体系についての意見をしっかりと受け止めて、この政策体系図（案）を修正し、基本計画の素案をまとめたいと思います。

以上